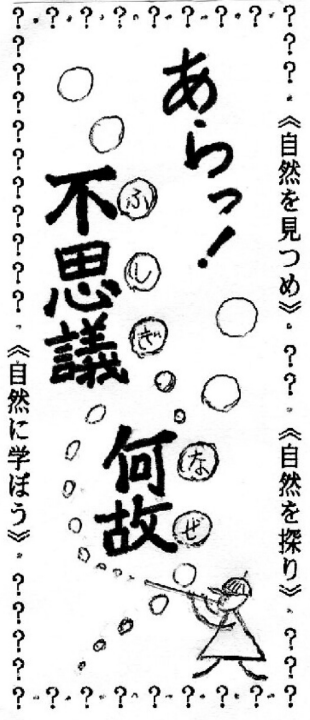


自然談議・科学談議



NO. 48 (通算48)

絵・文・題字 渋谷 一夫

我が家の天然記念木② 花香る「金木犀」

秋、澄み切った青空。どこからか良い香りが漂ってきた。何の香りだろう。アツ「金木犀」だ。「東風吹かば...」じゃなく「西風吹かば...」だ。わが家の西に大きな「金木犀」があり、それが今満開で良い香りを送ってくれているのだ。わが家の天然記念木なのだ。一体どんな木なのだろう。

南畑も次第に都会化してきた。所々にボサボサツと老木があるのは、大抵神社やお寺か公園だ。それも杉や松・イチヨウ・サクラなどが多い。昔からの農家に一部残っている老大木は、ほとんどがケヤキだ。市の保存木に

もなっている。だが、大木になった老「金木犀」は、あまり見かけない。わが家には、それがある。

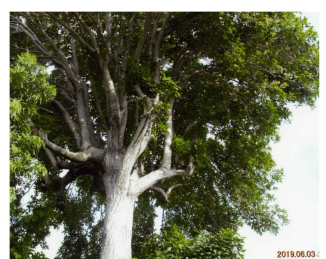
「木犀」とは...?

「木犀」は常緑の小高木で中国が原産。金木犀と銀木犀があり、わが家にあるのは「金木犀」である。1年中葉っぱが緑色なので、野鳥たちのよい棲み家にもなり、休息所にもなっている。写真のように、樹高の高い老木だ。2階建て住宅の屋根よりも高い。10m近くはあるだろう。私が子



2階建て住宅の屋根より高い「金木犀」

洞回りも太い。地上50cmの場所で直径が40cmから50cmあり、洞回りも同じ場所で、1m30cm前後ある。根元部分は根が張っていて更に太く、測定不能だ。樹高も高く、狭い



「金木犀」の上部と太い「金木犀」の主幹

場所なので、一度では写真に納まらない。幹部分と上部とを分けて撮影し、継ぎ足した。こんな「金木犀」の老木は、南畑でも珍しいのではないかと思う。ぜひ保存したい老木だ。

金木犀は匂う花

金木犀は雌雄異株だ。だが、日本にあるのはほとんどが雄株だ。だから果実は見られない。でも花の香りは素晴らしい。

10月の今頃は、橙黄色の花が満開で、隣近所に、よい香りを撒き散らしている。中国名は「丹桂」と言い、匂う花の意味らしい。だから中国では、この花から香料を取ったり、干した花をウーロン茶の香料としたりしているようだ。

庭木や公園樹

日本では、昔から庭木としてまた公園樹として植えられていたようだ。わが家の「金木犀」もその流れで、先祖が庭木として植えたものだろう。それが運よく、誰にも切られずにすみ、そのまま残ったのかもしれない。だから今後も、わが家の「天然記念木」として大事に保存していきたいと考えている。